

第1回青田廻り資料

平成29年6月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

～「H29JAなのはな米品質向上運動」実施中～
産地として選ばれる“なのはな米”1等米比率3年連続90%以上を目指して

本年は、田植え時から比較的好天日が多かったことから、苗の活着は良好で、その後も概ね順調に生育しています。

今後は、分けつが急激に増えることが見込まれます。遅れずに『溝掘り・中干し』を行い、茎や根を充実させ、高温に打ち勝つ稲体づくりに努めましょう。

水稻の生育状況

草丈：平年並み 茎数：平年並み 葉齢：平年よりやや早い 葉色：平年並み

コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内生育基礎ほ（8カ所）6月5日調査平均

	田植日	草丈	株当り茎数	m ² 当り茎数	葉齢	葉色
H29	5月13日	29.1 cm	11.8本/株	216本/m ²	7.0	4.1
H28	5月11日	31.1 cm	14.8本/株	275本/m ²	7.1	4.1
平年	5月11日	28.7 cm	10.8本/株	203本/m ²	6.7	4.2

※平年 平成19～28年の平均値

1 溝掘り・中干し

～管理の視点を『根づくり』にチェンジ～

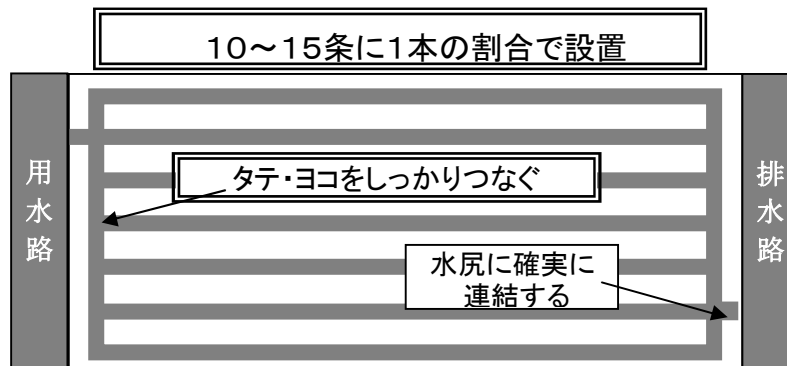
(1) 溝掘り

溝掘りは中干しと水管理のかなめです。

まだ溝掘りをしていない場合は、今すぐ実施しましょう。

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、3～5m（10～15条）間隔を目安に溝を掘る。（乾きにくい部分については、間隔を狭くする）
- ・溝と水尻は、確実に連結する。
- ・溝掘り後、中干しでしっかり固めて入排水を容易にする。



(2) 中干し開始時期の目安

今後、発生する分けつは「穂にならない分けつ」となります。稲体の健全化や秋のコンバイン作業の地耐力確保に向けて、生育に合わせて**中干しを早めに開始**しましょう。

①**移植 田植え1ヶ月後頃**（目標茎数の8割程度、7.5～8葉期）に開始

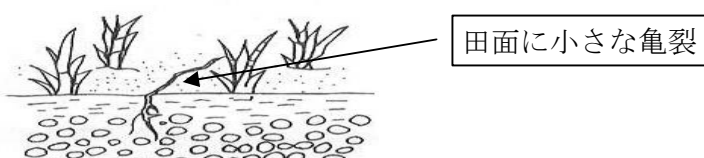
②**直播 1m間茎数が100本程度**になったら開始

- ・開始時期が遅れると、梅雨の影響で土壌を十分に干せなくなる恐れがあります。
- ・中干しが不十分な場合、後発の分けつが残り、品質低下につながります。

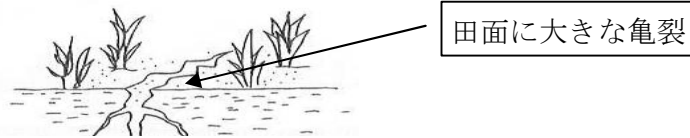
(3) 中干しの程度

干し過ぎると逆に稲にダメージを与えますので、数回に分けて適度に田干ししましょう。

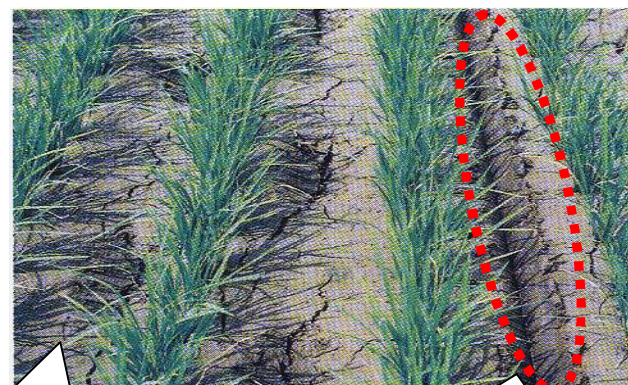
- ・**普通乾田** → 長靴が沈まない程度の中干し
期間は**3～5日間**が目安



- ・**水はけの悪いほ場や粘土質、大豆跡田**
→ 強めの中干し
期間は**5～7日間**が目安



写真では・・・



弱いヒビが入っている

溝がしっかりと残っている

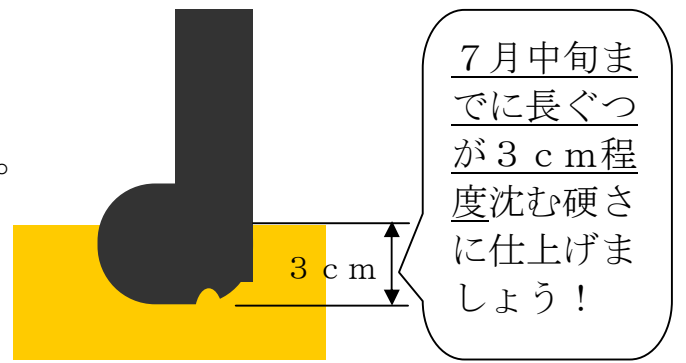
2 中干し後の水管理

中干し後は、**間断かん水**で根に水分と空気を十分補給し、うわ根の生長を促進しましょう。

あわせて湛水管理後の収穫期に十分な地耐力を確保しましょう。

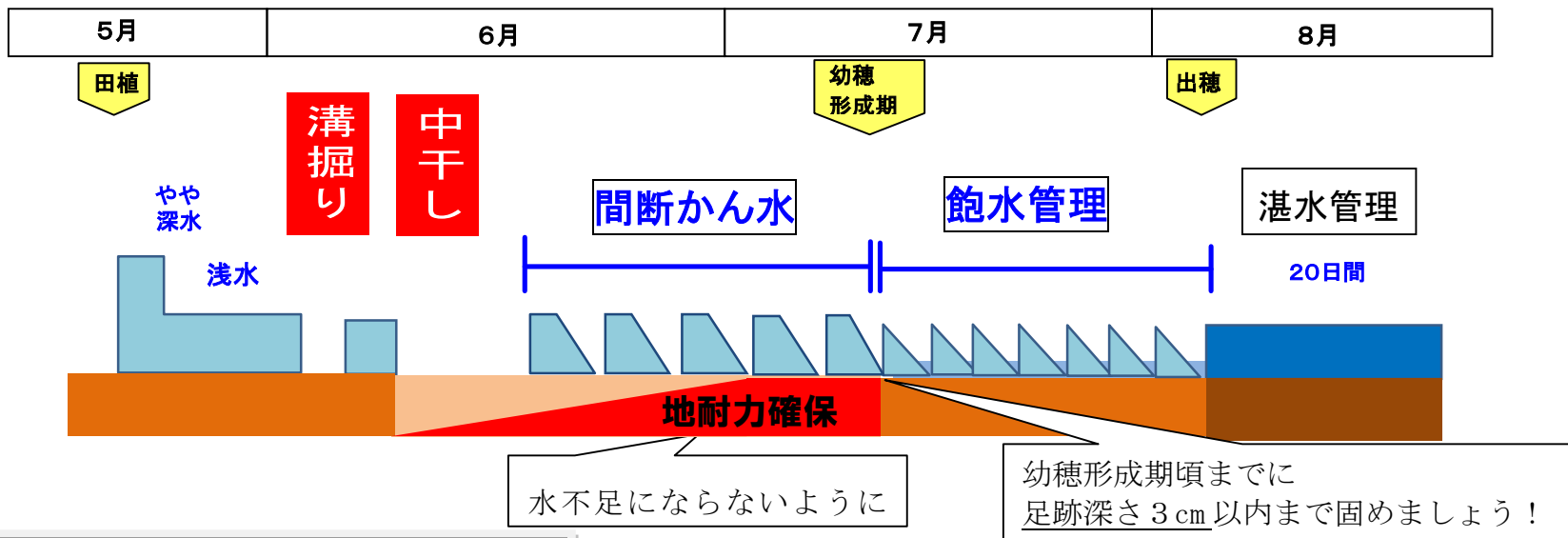
《間断かん水の目安》

- ◆乾きやすい水田：1日程度湛水し、その後**2～3日程度落水**する。
 - ◆乾きにくい水田：1日程度湛水し、その後**3～4日程度落水**する。
- (※ため水は厳禁！うわ根が発達しません。)



○幼穂形成期～出穂期までは間断かん水の落水期間を短くした**飽水管理**で、水分補給しながら土の硬さを維持しましょう。

水管理のイメージ (コシヒカリ)



3 ケイ酸質資材等の施用

特に肥効調節型基肥は、リン酸やカリの成分が少な目になっています。これらの成分や登熟向上に必要なケイ酸を補うため、**エスアイ加里特号**または**BBPKケイ酸**等を必ず**施用**しましょう。

施肥体系 (使用基肥肥料)		肥料名	10a 当たり施用量	施用時期
分施	(なのはな有機基肥)	エスアイ加里特号	10～20kg	6月中旬～下旬
	(燐加安15号)	太陽のめぐみ	20～40kg	
肥効調節型基肥 (なのはな一発基肥など)		エスアイ加里特号	20kg	
		BBPKケイ酸	20～40kg	

4 雑草防除 (除草剤散布)

～雑草が残った場合、下表を参考に除草剤を遅れずに散布しましょう。～
～除草剤の使用回数等、使用方法・葉齢を必ず確認して使いましょう。～

雑草の状況	除草剤名	散布量 10aあたり	散布時期 (移植)	使用回数	使用上の注意
ノビエが残った場合	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5kg	田植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)	2回以内	・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流しをしない
広葉雑草が残った場合	バサグラン粒剤	3～4kg	田植後15～50日 (収穫60日前まで)	1回	・落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・散布後、3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう水尻は必ず止めておく
ノビエと広葉雑草が残った場合	アクシズMX 1キロ粒剤	1kg	田植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、5日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流しをしない
	ワイドアタックD 1キロ粒剤	1kg	田植後20日～ ノビエ5葉期まで (稲4葉期以降) (収穫60日前まで)	1回	・散布後、5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させない ・完全に枯死するまでに3週間以上を要することがある
	クリンチャー バスマE液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	・落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布 ・散布後、3～4日は入水や落水をしない

○斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる**畦畔や水田周辺の雑草地の草刈り**を徹底しましょう。

草刈り運動実施期間 7月1～10日 (一斉草刈り日 7月1～2日)